

だんご坂通信

熱が高く体中が痛いのですが



「熱が高く体中が痛いのですが」

昨日来院された、インフルエンザの患者さんの訴えです。前日の夕方頃から何となく身体のだるさがあり、夜中に猛烈な悪寒（寒気）におそわれ、朝、体温を測ってみたら38度5分もあり、熱と身体全体の痛みで、ふらふらの状態で、来院されました。これがまさにインフルエンザの典型的な症状です。

我々はこうした患者さんを診たときは、季節柄まずインフルエンザを疑いますが、念のため、インフルエンザの迅速診断検査を実施しました。約15分で、陽性と判明したため、抗インフルエンザ薬を処方しました。インフルエンザが普通の風邪と違うところは、激しい症状で、治療をしない場合は、こうした症状が1週間も続くことです。このような症状のため、若い人でも大変なおもいをするわけですから、何らかの病気を抱えているお年寄りがかかると、時には命にかかわることもあります。そんなわけで、各医療施設では毎年11月頃より、インフルエンザの予防接種を呼びかけていましたが、今シーズンは、ワクチンを接種される方が昨年よりかなり少なく、結果として今シーズンの流行を助長してしまったと考えられます。ワクチンが効果を発揮するまでには、通常2週間程度かかりますから、これからワクチンを接種することはあまり意味がありません。月並みな注意としては、外出時にはマスクをする。人混みにはいかない。

外出から帰ったら、手洗い、うがいをします。体力を維持するため、休息と栄養を十分に取るなどが重要であることは云うまでもありません。しかし、もしかかってしまったら（罹ったかもしら）、至急医療機関を受診して下さい。今、昔と違い、インフルエンザを迅速に診断するための検査キットと、インフルエンザに対す



る特効薬があります。

一口メモ

インフルエンザ対策の基本は、ワクチン接種といわれていますが、ワクチンを受けたのに罹ってしまったという話を聞くことがあります。ワクチンの有効性は、大きく2つの因子に左右されます。一つは、受ける人の免疫能（抵抗力）で、もう一つは、ワクチンに使われるウイルス株（世界各地で採取され保存されているウイルス）が、その年に流行するウイルスに類似しているかどうかです。インフルエンザが毎年流行するのは、毎年ウイルスが少しずつ変化しているためですが、ワクチンはそうした変化を予測して毎年新しく作られます。実は昨年流行したA香港型ウイルスの一部は、それまでの流行の主流であったウイルスとはやや異なり、昨年のワクチンでは予防できませんでした。そのため今年はこのウイルスが流行

の主流になると予測され、これに類似したウイルス株がワクチンの基になっています。



先頃WHOは来シーズン用のワクチンウイルス株を発表しました。その中のカリフォルニア2004は、今シーズン米国西部のA香港型患者の1/4から検出されているウイルスです。もちろん今年のワクチンは効きません。大量輸送時代の現在、我が国でのこのウイルスの流行状況は？ 正式発表を待ちたいと思います。S.K.